

SYOHEI ニュース 令和8年11月号

今年も全国で地震・豪雨被害が続出しています。先人から学ぶ!!今回は、危機管理事例として
・・後藤新平の検疫事業を紹介・・

今から 131 年前の明治 28 年 1895 年、日清戦争に従軍した帰還兵 23 万人余に後藤新平が実施した検疫事業を紹介します。



明治 10 年の西南戦争の際、コレラが蔓延し、発病者 1,018 名、死者 502 名に上りました。この時、野戦病院から送還させる重病患者を治療施設として大阪陸軍臨時病院が建設されました。病院長は石黒忠恵であり、愛知県病院で勤務していた後藤新平が修行の好機ととらえ、希望してこの臨時病院の傭医となり、腕を磨きました。

明治 28 年・1895 年の日清戦争終結時、野戦衛生長官であった石黒忠恵は、西南戦争の際にコレラの蔓延を防ぎきれなかった苦い経験から、1 月 20 日、陸軍大臣に戦後防疫の建議書を提出し、それが実行されることになりました。

3 月 30 日、臨時陸軍検疫部が組織され、部長に武官(軍人)である児玉源太郎、事務官長に文官(行政官)である後藤新平という辞令が発令され、一切の事務のほとんど文官事務官長に一任されました。

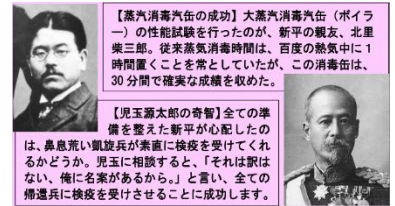
4 月 3 日、関係者会議を開催し、検疫実施上の技術的大方針を決定します。似島(宇品付近)、彦島(下関付近)、桜島(大阪付近)の検疫所を設けて 23 万人もの凱旋軍の検疫を行うという前古未曾有の大計画です。7 月から開始すると想定すると、その完成期限はわずかに 3 ヶ月。その間に、海を埋め、樹を切り払い、地ならしをし、家を立て、屋根を葺き、諸道具一切を運び込み、電信、電話、電灯の設備をなし、加えてその間に全く類例のない大消毒汽缶を製造して備え付ける



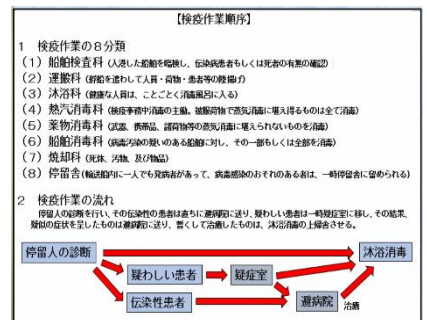
検疫所の設置



というのですから、まさに太閤の一夜城にも比すべき大工事でした。ただでさえ、人間業の仕事ではないと言われていたものが、凱旋兵の帰還が一ヶ月早まることになったため、検疫所の工事はまるで戦場のような有様となり、新平自身も 3 時間以上寝たことがないという生活が続けて当日を迎えることになります。



6 月 1 日から始まった検疫事業が 8 月に入るとほぼ終了しました。この間、検疫総船舶数は 687 艘、検疫総人員 232,346 人、全消毒船舶 16 艘、局部消毒 290 艘、船内伝染病患者コレラ 369 人、コレラ疑似 313 人、腸チフス 126 人、赤痢 179 人、痘瘡 9 人、計 996 人、停留人員 46,699 人でありました。



世界の歴史始まって以来の大検疫事業で、後に編纂された「臨時陸軍検疫部報告摘要」は和文と英文との二様に作成され、陸軍省から欧米諸国に寄贈されましたが、ドイツ皇帝がこれを読んで、「戦争に勝った国はいくらでもあるが、あと始末をきちんと行った国は少ない。日本は凄い国だ」と激賞したと言われています。

※ 後藤新平記念館ホームページ「後藤新平通信 R2 年 3 月号」を参考にしました。

大谷翔平選手の成績ボード (R8.10.21 現在)

打者: 139 試合 打率 275 本塁打 30 打点 81 盗塁 11
投手: 14 試合 勝利 8 敗戦 2 防御率 1.79 奪三振 95
R8.10.16 ドジャースは、ポストシーズンのナ・リーグ優勝決定戦で敗れ、3年連続ワールドシリーズ制覇ならず

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和8年 10 月 22 日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町 3-1 TEL0197-25-3833
※市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。 第 79 号



① 乙女川公園周辺より。農業用水路の役割を持つ川には、この季節、大量の水が流れる。

胆沢平野を潤す水路の一つである小^こ違^{たが}堰は、胆沢若柳^{しげいら}地内で茂井羅中堰から分水し、水沢区内を流れ、小八木橋周辺で北上川に合流する。水沢区市街地ではこの川を「乙女川」と呼ぶ。かつて川は水沢城の外堀として利用され、漁業などの立ち入りが制限されていたことから「御留川^{おとめ}」と呼ばれており、乙女川の名前はそれが由来とされる。



② 川沿いの公園の一つである堀之内親水公園。水沢地区センターの東に位置し、堀之内公園に隣接するこの公園にはやぐらや遊具などが整備され、気軽に訪れることができる。

明治 22 年には川をせき止めて水泳場が作られ、子どもたちでにぎわったという乙女川。現在では川のそばにいくつかの公園が作られ、憩いの場となっている。その一つである乙女川河口公園の物見やぐらからは田んぼアートを眺めることもできる。



③ 水沢病院そばの搦手橋付近から行われていた乙女川の灯籠流しは乙女川公園に会場を移し、実行委員会主催の下、平成 26 年に復活した



(平成 27 年 8 月 20 日撮影)

水沢の年中行事の一つである乙女川の灯籠流しは大正 15 年に始まった。中断を挟み、担い手を代えながら今日まで続いている。ことしも 8 月 20 日に、故人をしのぶ灯火が川を流れる。